

1. 活動状況

団体名	社団法人北海道建築士会 空知支部滝川分会青年部
対象事業	その他 活動センターが地域貢献活動と認めるもの
事業名	日本国北辺南洋住宅比較文化論の研究（滝川・名護交流研究 2000）
事業目的	北海道の住宅づくりは、寒地技術の確立により快適な室内環境を実現したが、定型化やライフスタイルの喪失、地域や家族間の関わりの希薄化という課題を抱えている。「住まう」の観念から住宅づくりを考え直したい。
実施期間	2000-2002（当初計画3カ年、随時延長）
実施活動内容	<p>北海道とは対極の気候・風土、歴史・文化を持つ沖縄名護の建築士会と、住宅史から生活文化、住宅づくりについての比較交流研究を目的とする。</p> <p>平成12年から3カ年計画で区切りの成果報告書の上程を目指しており、今年度においては調査交流事業、滝川における住文化シンポジウムの共催、アイヌの伝統的住宅であるチセの復元事業を実施した。</p> <p>調査交流においては、滝川より会員4名が名護を訪問し、主に古民家と集落形態について資料収集し、シンポジウムについての協議を行ってきた。</p> <p>6月30日に開催した住文化シンポジウム「北と南の住まい・暮らし」においては、沖縄より民族学者の島袋氏と名護建築士会から3名、地元国学院短期大学教授2名に参加いただき、熱心な一般市民60人とともに活発な討論が繰り広げられた。</p> <p>また、住宅史研究の一環として市民組織「チセ・ア・カラの会」を組織し、伝統的な工法に基づくチセの復元を行った。</p> <p>2月より準備をはじめ7月末に完成したチセの復元事業については、アイヌの住宅づくりを実体験することによる貴重な住宅史データを得るとともに、生活文化に関する多くの知見を得た。また、完成したチセは多くの市民への財産として、今後の活用が期待されている。</p> <p>シンポジウムにおいては北と南における生活文化に対する様々な比較視点が提供されるとともに、建築の背景に関する観点が多角的に論議され、今後の比較研究での成果報告書として結実させたい。</p>
今後の課題 将来計画等	平成14年以内に報告書の製本完成を予定している。そこから得た「住まい」に対する観念を、実際の住宅づくりに生かす交流研究活動を名護との間で継続実践してまいりたい。

滝川・名護交流研究2000事業 シンポジウム
「日本国北辺南洋住宅比較文化論の研究」



「北と南の住まい・暮らし」 -アイヌ文化と琉球文化に学ぶ-



とき 2001. 6. 30(土) 15:00-17:30
ところ ホテルスエヒロ(滝川市明神町1丁目)
主催 滝川・名護交流研究2000(両建築士会)
共催 滝川市・名護市(教育委員会)、たきかわ文化村

プログラム

基調報告 「チセ」復元事業に学ぶ(滝川建築士会)
基調講演 「琉球の生活」島袋正敏氏(名護市図書館長)
討論会 コーディネーター 狩俣恵一氏(国学院短期大学教授)
オブザーバー 魚井一由氏(旭川市博物館研究員)
島袋氏、両建築士会代表



日本国 北辺 住宅比較文化論

南洋



■シンポジウムの討論会にご参加ください■

- 今の住宅づくりは何と不自由なのだろうか。
閉ざされた住宅は、地域の関わりを失い、核家族化は家庭内を孤立化し、住宅ローンは人生を束縛する。
- チセは何と自由で軽快なのだろうか。
身近にある材料で、コタンの住民総出で行われたであろうチセづくり。自然と人との共棲による本当の豊かさ。
- 沖縄の住宅は何て伸びやかなのだろうか。
南側の門を上げると一の座(居間)の縁側が現れる。玄関の必要がない生活風景がそこに展開する。